

# 人口・世帯に関する基礎データ集 (名立区)

平成29年4月改訂  
上越市創造行政研究所

## ■ はじめに（データの定義・出所について）

このデータ集は、各地域自治区における人口・世帯数の概要をご紹介します。過去から現在までの変化や、上越市全体あるいは他の区との比較などを通じて、地域課題や今後の目標・方向性などを考えるための参考資料としてご活用ください。

なお、データの詳細な分析や二次利用などされる場合には、下記に示したデータの定義や出所にご留意ください。

- データの出所は国勢調査が中心であり、補完的に住民基本台帳などを使用しました。  
国勢調査のデータは5年おきのため少し古い情報になりますが、実際に住んでいる人の数がわかり、その内訳の把握や全国との比較などにも便利です。  
なお、国勢調査と住民基本台帳ではそれぞれ人口の定義が異なるため、値には若干のずれがあります。
- 国勢調査のデータは、2015（平成27）年が最新値です。  
ただし、住民基本台帳を用いたデータ（図7・8）は現在集計中であるため、2010年までのデータを用いて作成しました。
- 地域自治区別のデータは、町丁字（住所）単位のデータを合計したものです。  
実際の地域自治区は行政区（町内会）単位で構成されているため、合併前上越市の一部の区では、実際の値と若干のずれがあります。
- 将来推計人口は、あくまでも一つの目安であり、市の公式見解ではありません。  
ある仮定条件に基づき比較的簡便な方法で推計した人口であり、実際の人口は今後の諸条件の変化や取組状況によって変わりうるものです。  
特に、シナリオ①は最近の傾向が続いた場合の目安であるため、今後の地域づくりにおいてはこの状態を前提と考えるのではなく、シナリオ②で示したような目標を設定して取り組まれることを期待するものです。
- 「年」の定義は、データの種類によって異なります。  
国勢調査のデータは10月1日基準であるため、このデータ集における人口増減の対象期間は前年10月～当年9月としています。  
統計によっては年度（当年4月～翌年3月）や暦年（1月～12月）を対象期間とするものもありますので、他のデータ集と比較される際はご注意ください。
- このデータ集を加工・編集して二次利用することは避けてください。  
引用される場合は、上越市創造行政研究所の作成であることを明記してください。

# 人口・世帯に関する基礎データ集（名立区）

## 目次

### 1 人口

#### ● 区の人口はどのように変化してきたか？ 上越市全体や他の区と比較してどうか？

1 総人口の推移 名立区・上越市（1965～2015）

2 総人口の増減率の比較 市内 28 区（1965-2015）

#### ● 区の人口を年齢別にみるとどうか？ 上越市全体や他の区と比較してどうか？

3 年齢別人口〔3 区分〕の推移 名立区（1985～2015）

4 年齢別人口〔3 区分〕の比較 市内 28 区（2015）

5 年齢別人口（5 歳階級別人口ピラミッド） 名立区（2015）

### 2 人口増減

#### ● どの年齢層でどのくらい人の増減があるか？

6 年齢別にみた人口増減 名立区（2010-2015）

#### ● どの地域とどのくらい人の増減があるか？ 他の区と比較してどうか？

7 転入・転出先別にみた人口増減 名立区（2005-2010）

8 人口動態の比較 市内 28 区（2005-2010）

### 3 将来推計人口

#### ● 区の将来人口はこのままのペースでいくとどうなるか？ 少し頑張るとどうか？

9 シナリオ① 最近の傾向が続いた場合の人口推移 名立区（～2055）

10 シナリオ② 持続可能な定住促進が実現した場合の人口推移 名立区（～2055）

### 4 世帯数

#### ● 区の世帯数はどのように変化してきたか？ 上越市全体と比較してどうか？

11 総世帯数の推移 名立区・上越市（1970～2015）

#### ● 区の世帯構成はどのように変化してきたか？ 他の区と比較してどうか？

12 世帯構成の推移 名立区（1985～2015）

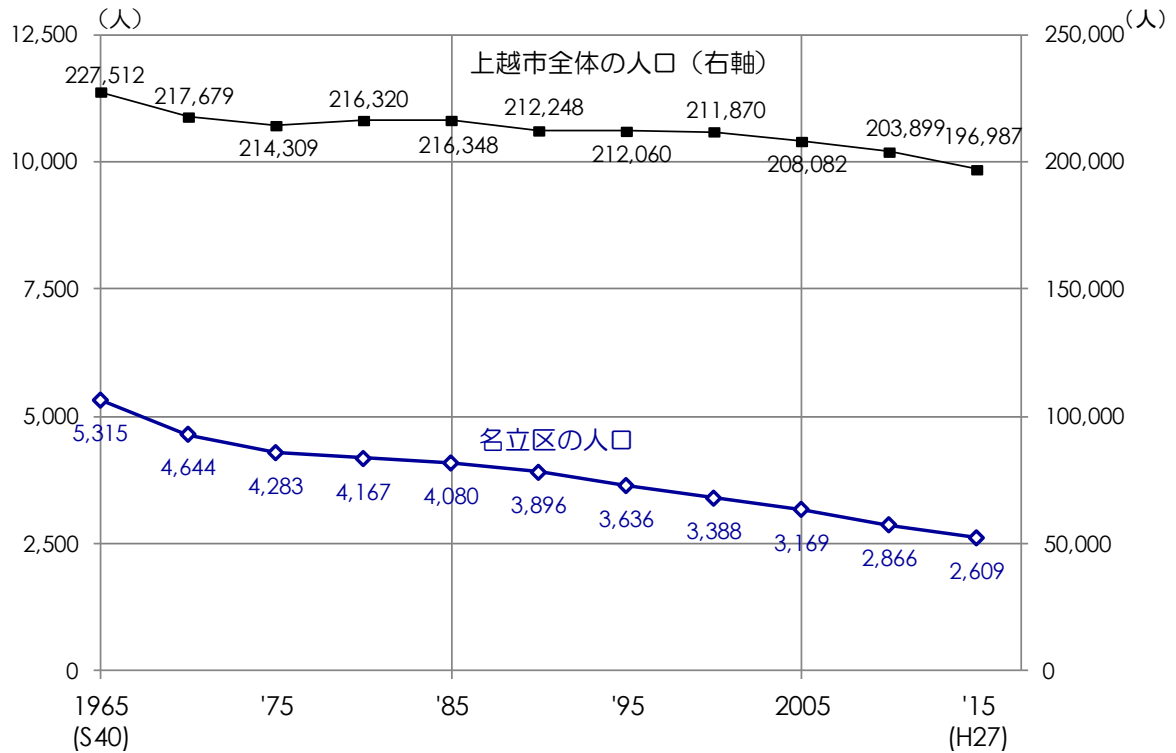
13 世帯構成の比較 市内 28 区（2015）

# 1 人口

● 区の人口はどのように変化してきたか？ 上越市全体や他の区と比較してどうか？

図1 総人口の推移

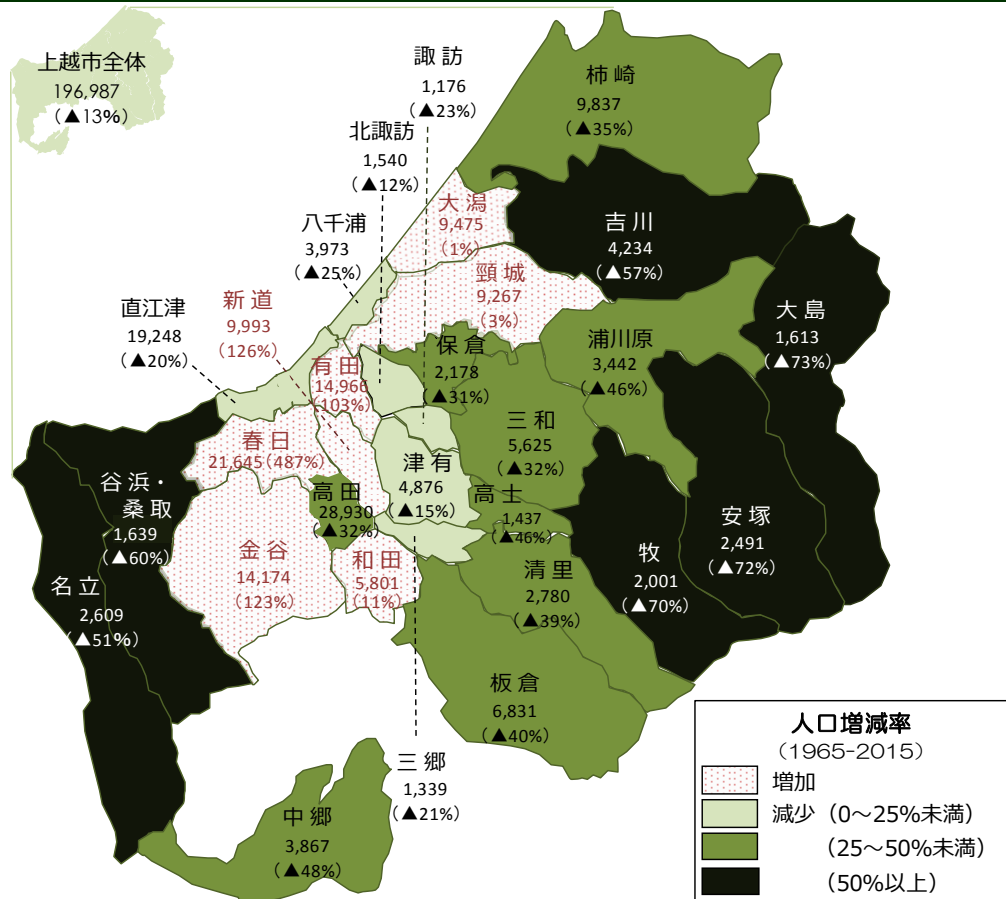
名立区・上越市 1965～2015



資料) 総務省「国勢調査」をもとに作成

図2 総人口の増減率の比較

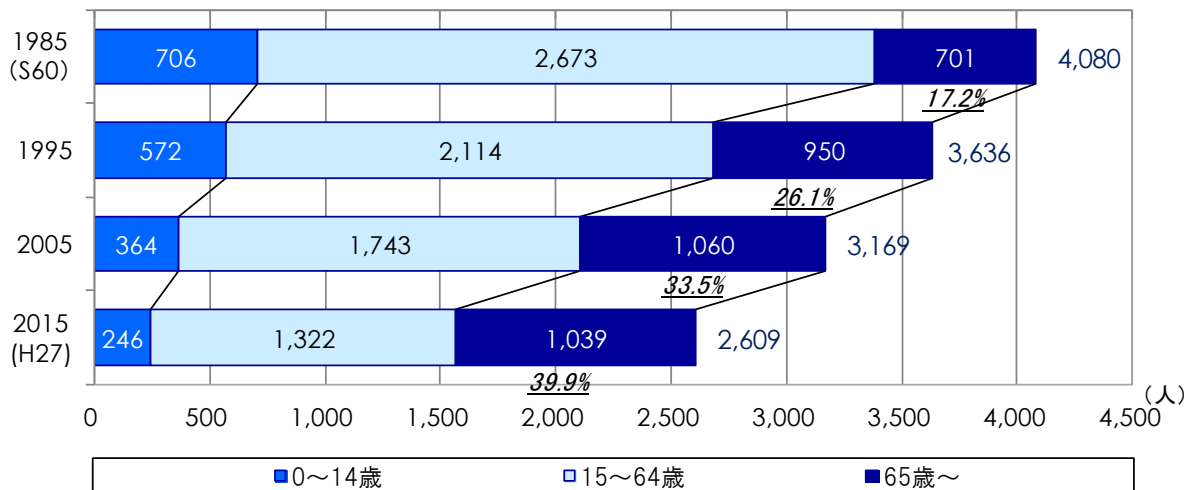
市内 28 区 1965-2015



資料) 総務省「国勢調査」をもとに作成

● 区の人口を年齢別にみるとどうか？ 上越市全体や他の区と比較してどうか？

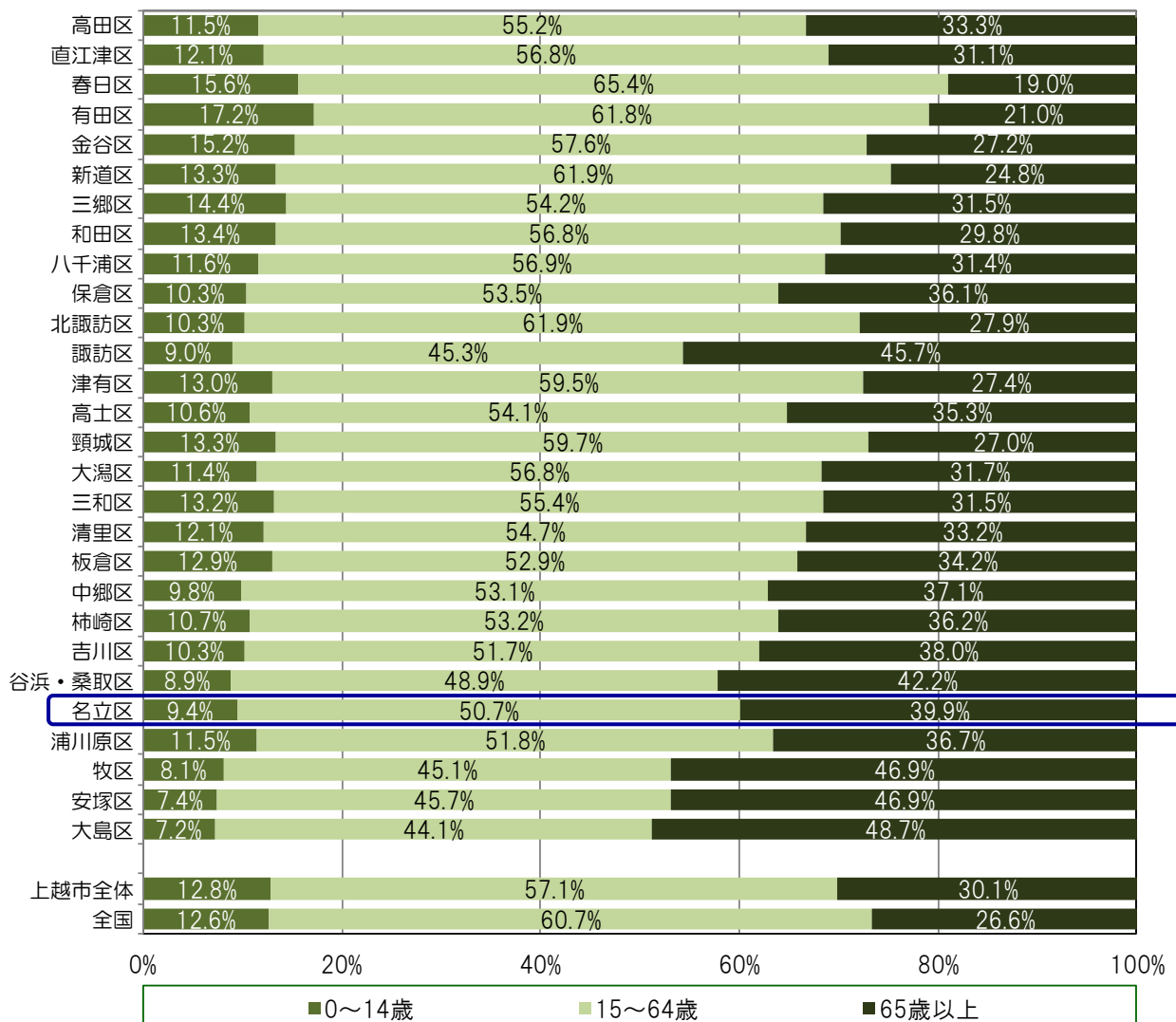
図3 年齢別人口（3区分）の推移 名立区 1985～2015



備考) % (下線表示) は高齢化率。合計値には年齢不詳分を含む。また、集計方法の制約上、数人程度の誤差が生じる場合もある (小地域集計の秘匿計算によるもの)。

資料) 総務省「国勢調査」をもとに作成

図4 年齢別人口（3区分）の比較 市内28区 2015



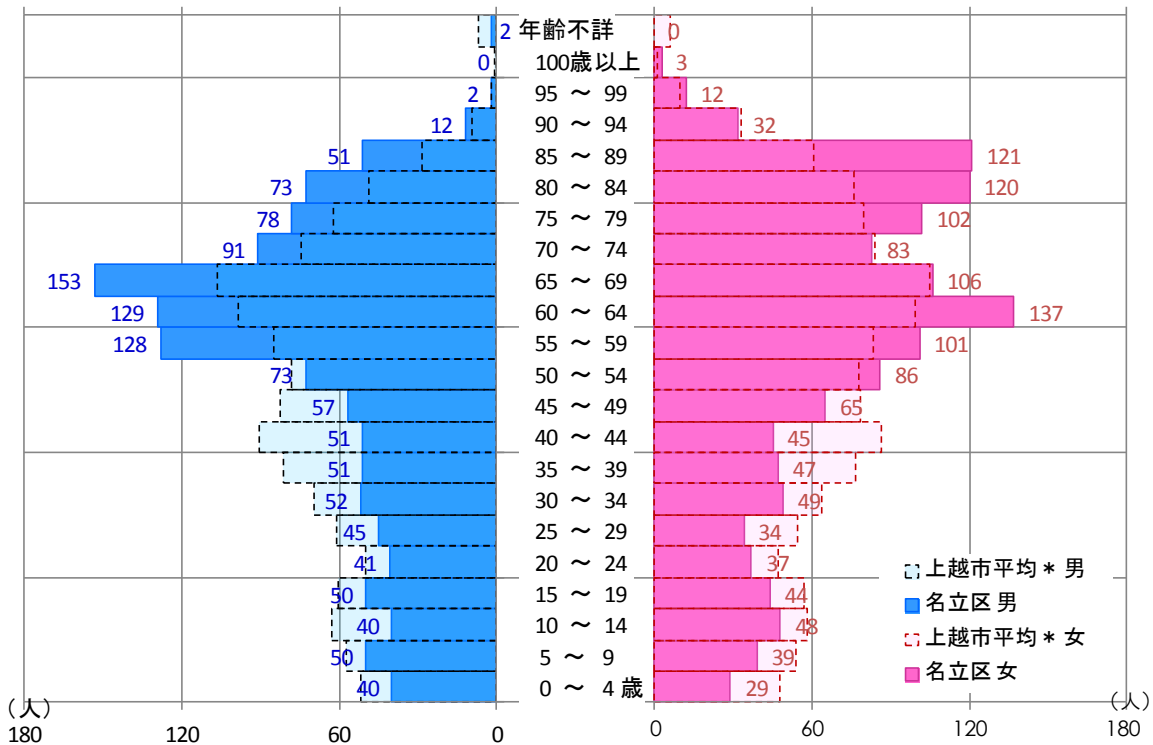
資料) 総務省「平成27年国勢調査」をもとに作成

図5

年齢別人口（5歳階級別人口ピラミッド）

名立区

2015



備考) 上越市平均\* は、上越市の人口ピラミッドの形を地域自治体の人口規模に合わせて重ねたもの  
 (年齢別の構成比率が、上越市平均に比べて高いか低いかを見るためのもの)  
 資料) 総務省「平成 27 年国勢調査」をもとに作成

2 人口増減

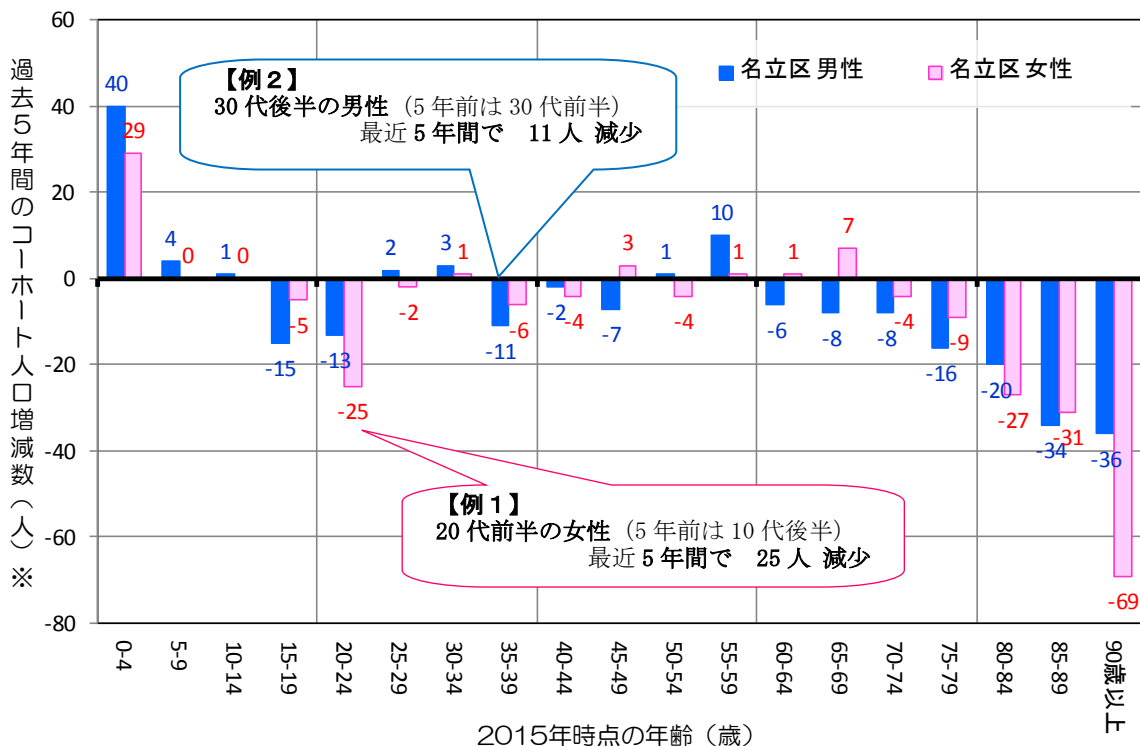
● どの年齢層でどのくらい人の増減があるか？

図6

年齢別にみた人口増減

名立区

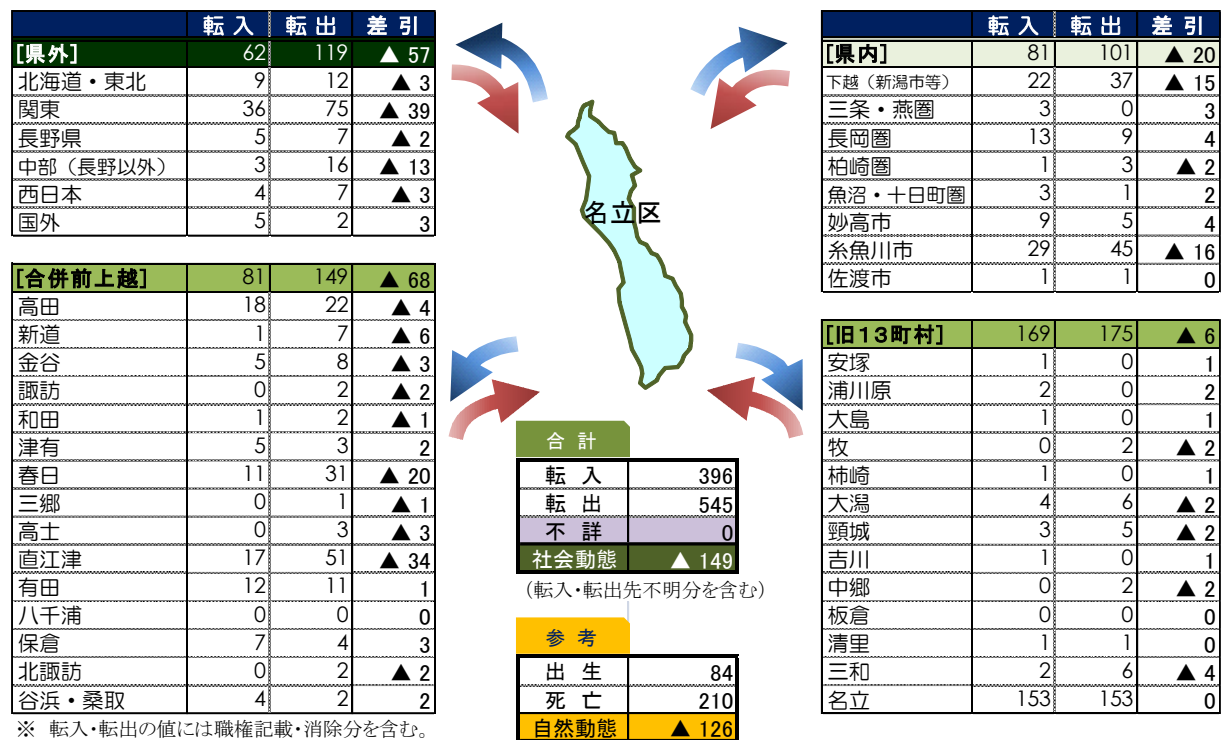
2010-2015



備考) ※は、5年前の5歳若い世代（すなわち同じ生まれ年のグループ）の人口と比較したもの。  
 資料) 総務省「国勢調査」をもとに作成

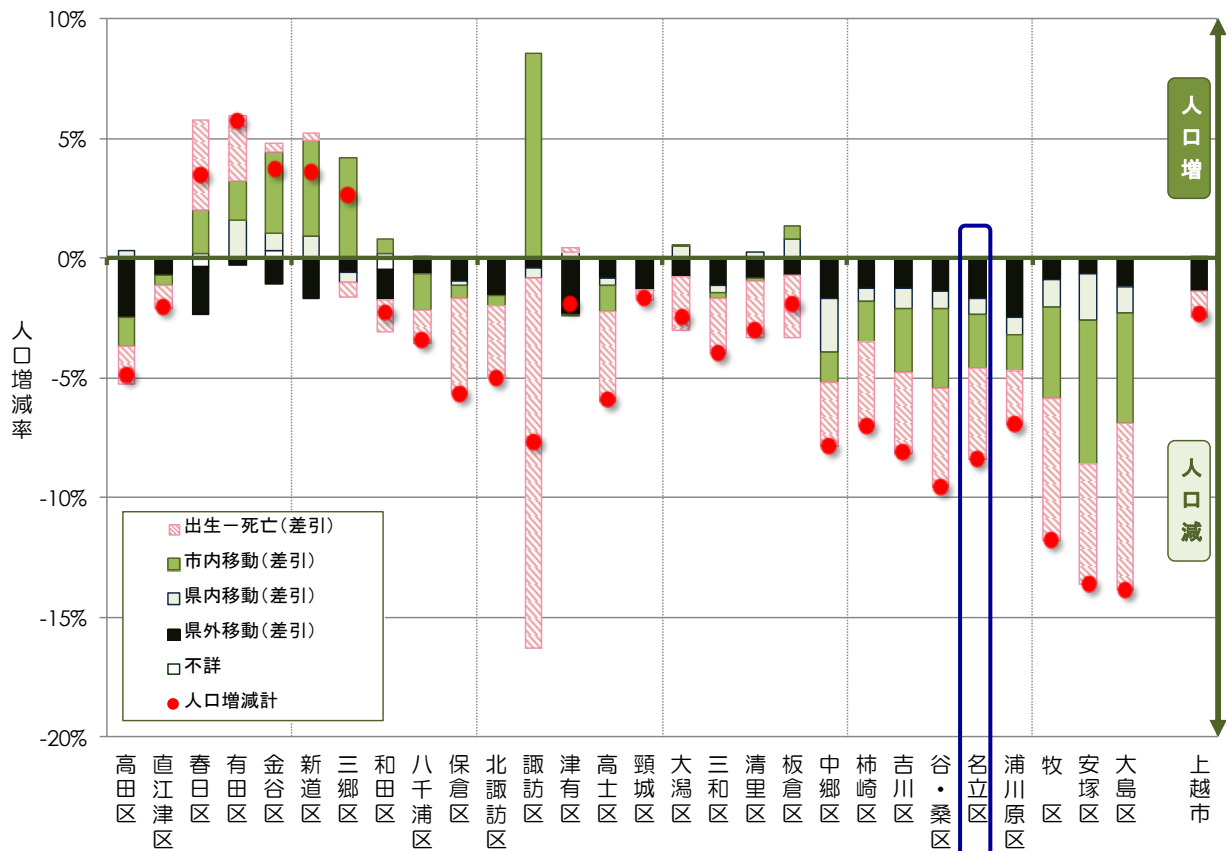
● どの地域とどのくらい人の増減があるか？ 他の区と比較してどうか？

図7 転入・転出先別にみた人口増減 名立区 2005-2010



資料) 「新潟県人口移動調査結果報告」及び上越市住民基本台帳データをもとに作成

図8 人口増減の比較 市内28区 2005-2010



資料) 「新潟県人口移動調査結果報告」及び上越市住民基本台帳データをもとに作成

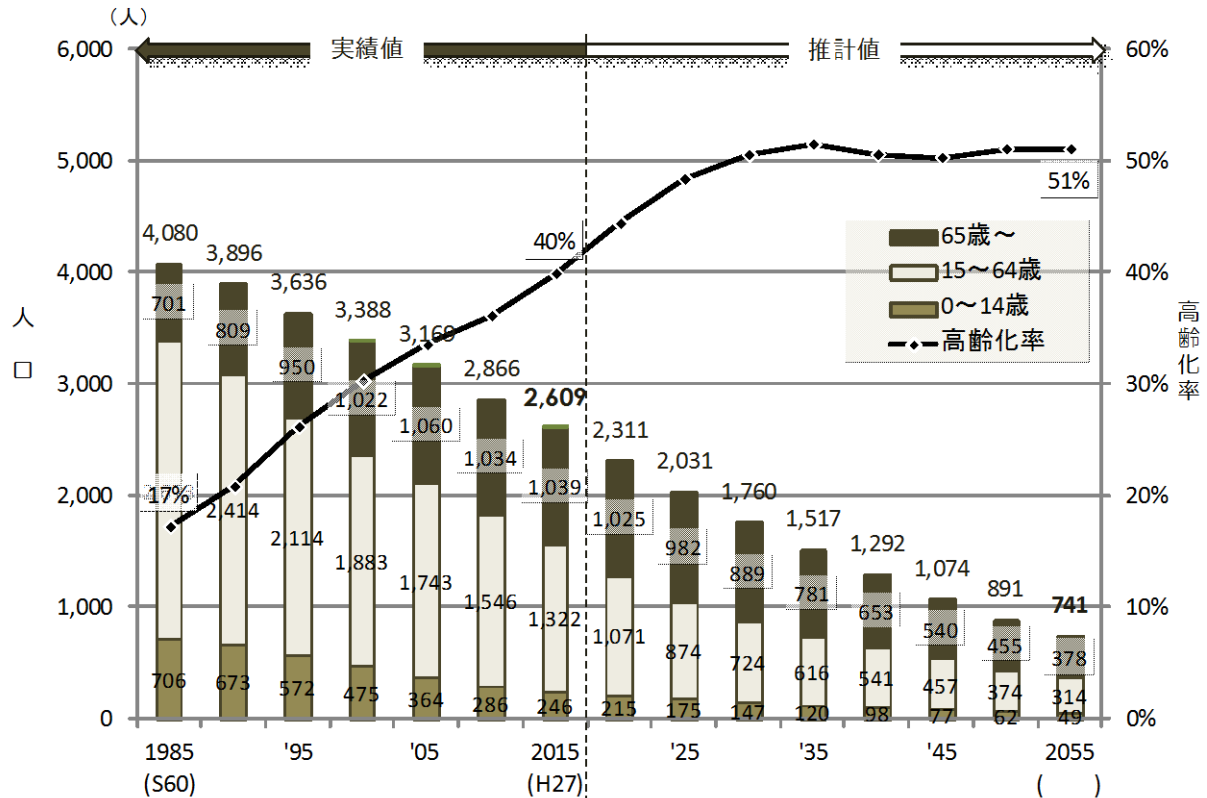
### 3 将来人口推計

● 区の将来人口はこのままのペースでいくとどうなるか？ 少し頑張るとどうか？

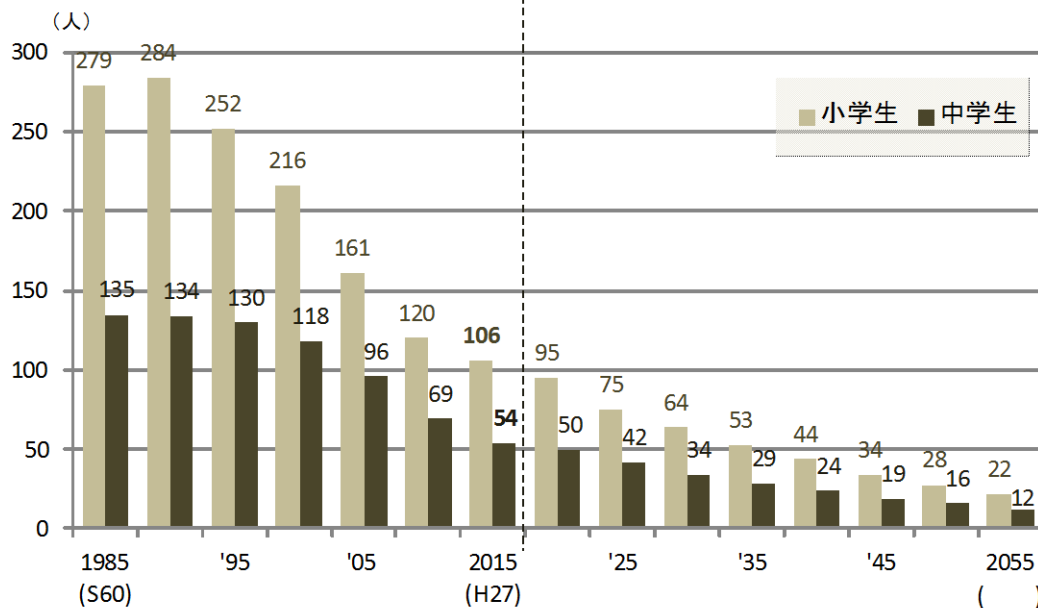
図9 シナリオ1 最近の傾向(※)が続いた場合の人口推移 名立区 ~2055

※ 年齢別人口増減(図6)の2005~15年における割合が今後も続くものとして推計

● 年齢3区分別 (1985実績 - 2055推計)



● 小・中学生人口 ※ (1985実績 - 2055推計)



備考) ※は5歳階級別人口を基にした概算値であり、実際の小・中学生の数とは若干のずれがある。

資料) 総務省「国勢調査」及びコーホート変化率法による推計値をもとに作成



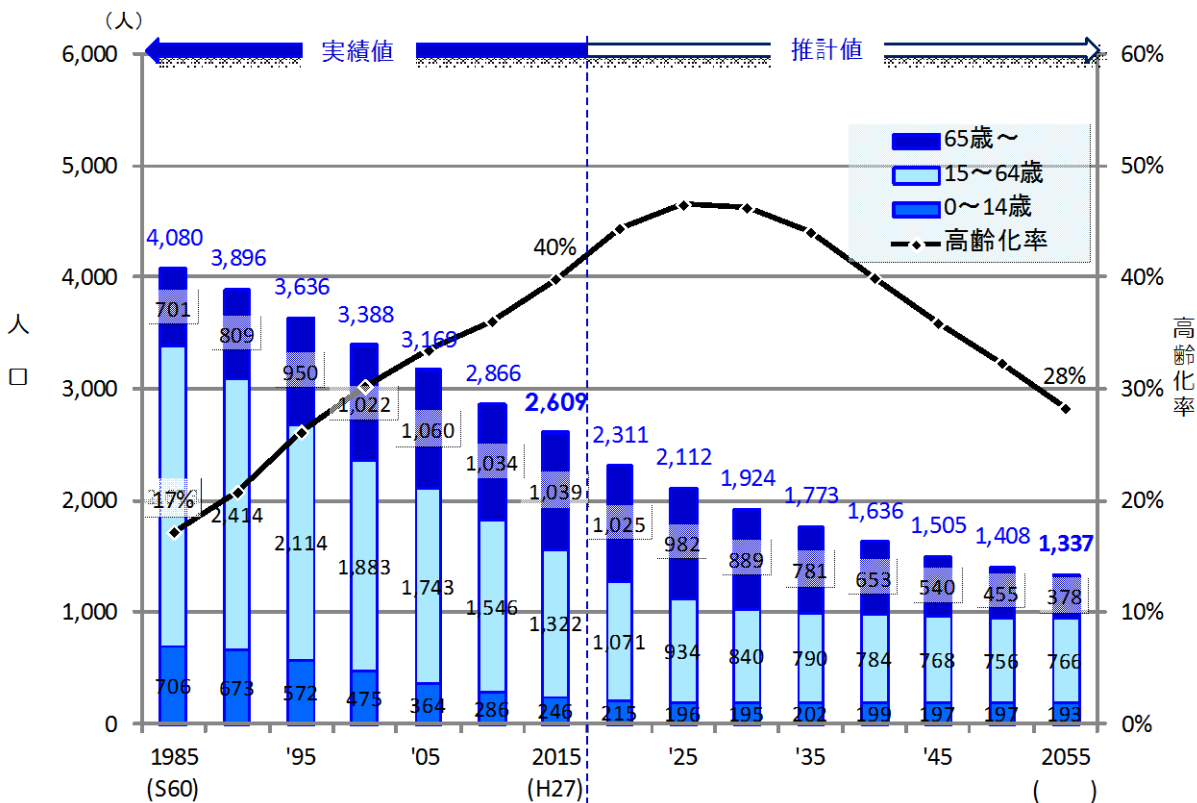
図 10 シナリオ 2 持続可能な定住促進(※)が実現した場合の人口推移 名立区 ~2055

※ 子どもの数の減少傾向が止まり、将来的には総人口や世代間の人口バランスが安定する状態を目標に設定。2020年以降、その達成に向けて以下の動きが実現した場合を想定して推計。

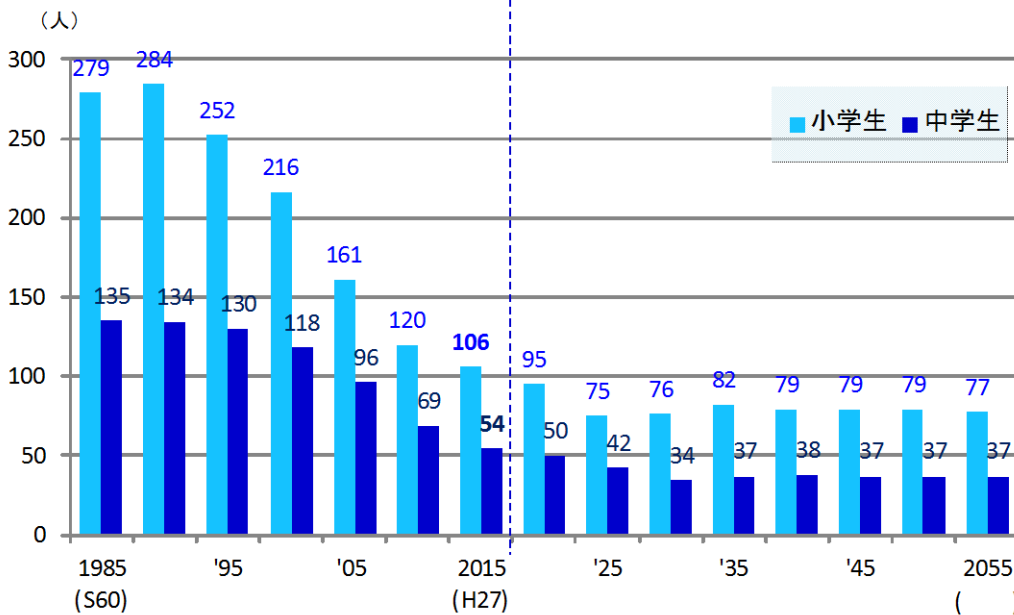
シナリオ 1 に比べて・・・

- 毎年さらに 3 組の〔30代前半夫婦と 4 歳以下の子ども〕が転入 = 9 (人)
- 毎年さらに 3 組の〔20代前半夫婦〕が転入 = 6 (人)

● 年齢 3 区分別 (1985 実績 - 2055 推計)



● 小・中学生人口 ※ (1985 実績 - 2055 推計)



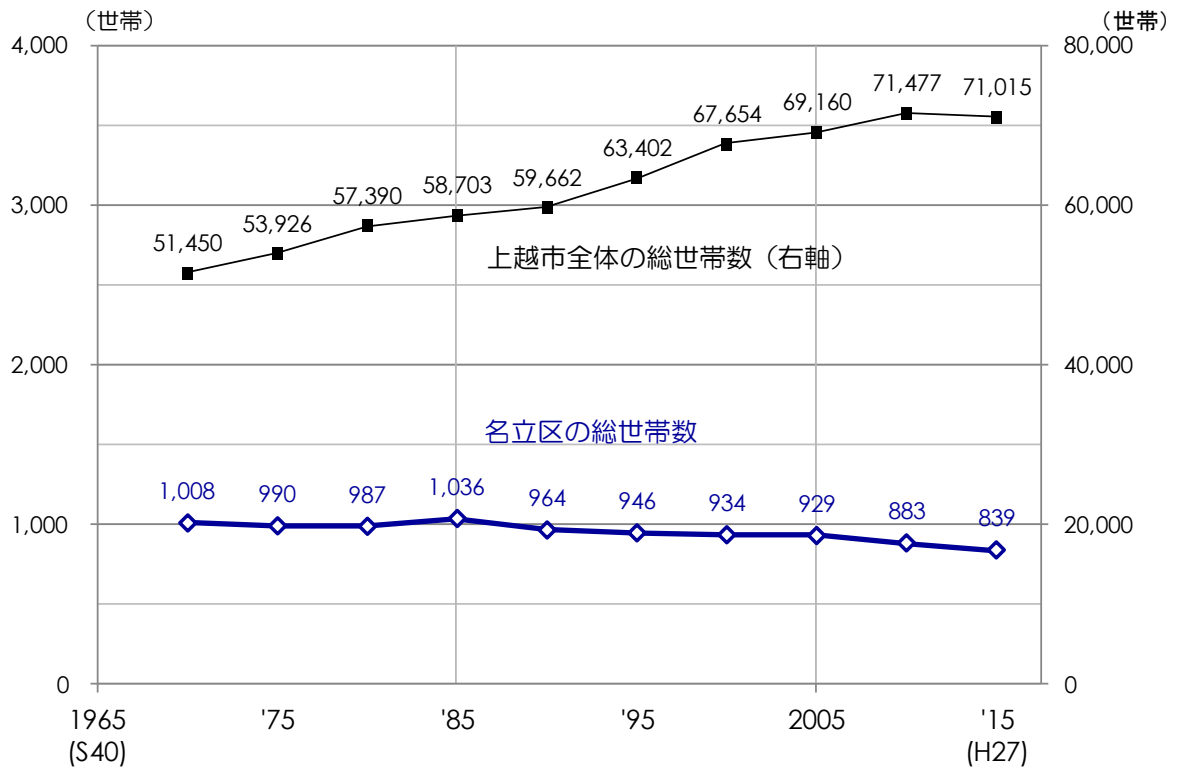
備考) ※は 5 歳階級別人口を基にした概算値であり、実際の小・中学生の数とは若干のずれがある。  
資料) 総務省「国勢調査」及びコーホート変化率法による推計値をもとに作成

## 4 世帯数

### ● 区の世帯数はどのように変化してきたか？ 上越市全体と比較してどうか？

図 11 総世帯数の推移

名立区・上越市 1970～2015

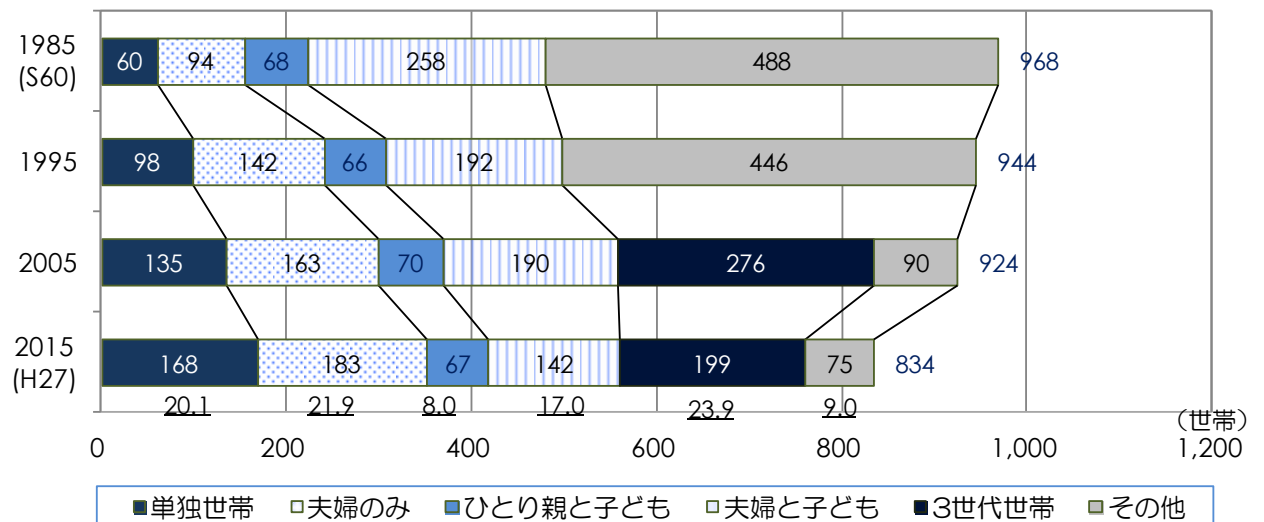


資料) 総務省「国勢調査」をもとに作成

### ● 区の世帯構成はどのように変化してきたか？ 他の区と比較してどうか？

図 12 世帯構成の推移

名立区 1985～2015



備考) 施設等の世帯(寮・病院・社会福祉施設など)を除く「一般世帯数」であり、合計値は「総世帯数」よりも若干少ない。1985, 1995年の3世代世帯は、「その他」に含まれる。  
集計方法の制約上、数世帯程度の誤差が生じる場合もある(小地域集計の秘匿計算によるもの)。  
2015年の棒グラフ下の数値は、全体に占める割合(%)を示す。

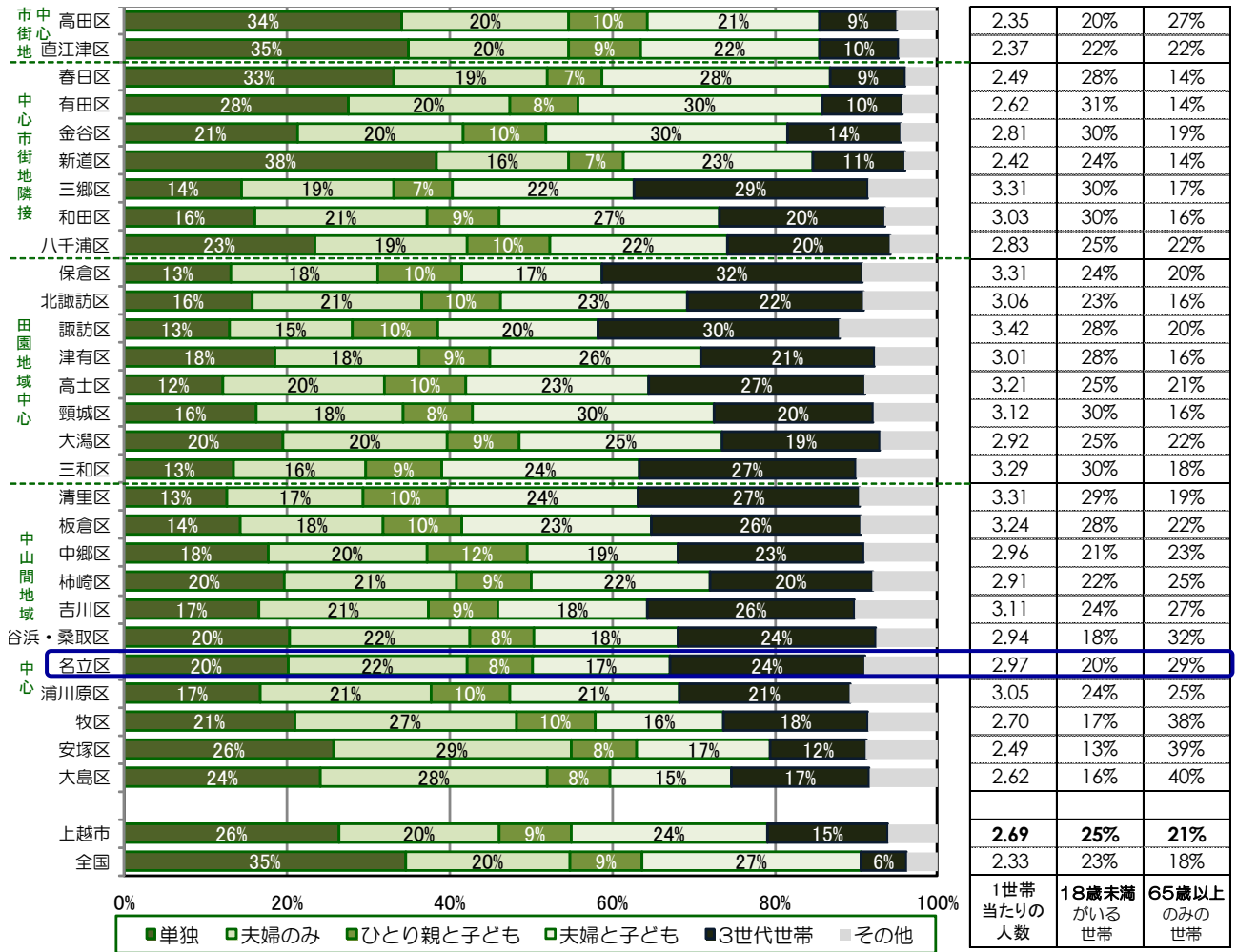
資料) 総務省「国勢調査」をもとに作成

図 13

世帯構成の比較

市内 28 区

2015



備考) 施設等の世帯 (寮・病院・社会福祉施設など) を除く「一般世帯数」の内訳を示した。

資料) 総務省「平成 27 年国勢調査」をもとに作成

## 「ろばた館」整備の当初計画（平成2年度 中山間地域農村活性化総合整備事業（名立地区）実施計画書）に対する検証及び現在の利用状況等

### (1) 対象地域

5集落：折居、森（桂谷）、平谷、小田島、西蒲生田

### (2) 地域の設定根拠

当地域は、町の中心を流れる二級河川名立川左岸沿いに位置し、5集落で形成されている。急傾斜地で全地域地すべり地域に指定されており、弓形状に連なる棚田地帯での耕作に多大な労力を要している。また、特別豪雪地域の指定も受けており、かつては旧名立村の中心地区となっていたが、人口の減少が鈍化する傾向の中にあって、当町において最も過疎化が進んでいる地域である。

このような中、当町では本地域を活性化のための重点地域として位置づけ、本事業で過疎化、高齢化、後継者不足の歯止めをするため、地域に住む人たちと一体となって施策を進め、地域の活性化をひいては当町全体の活性化に結びつけるため当地域に設定した。

### (3) 整備構想及び目的

住民の健康増進と連帯感醸成により、明るい地域の中から住民の自主活動を高めるために、活性化施設として「ろばた館」990㎡を整備し、①世代を超えたふれあいの場、②交流の場として住民の連帯意識やコミュニティの活発化を図り、あわせて③都会との触れあいの機会を創設し、地域の活性化を図る。

### (4) 整備の目的に対する実際の状況

#### ① 世代を超えたふれあいの場

いわお荘（集落開発センター）：昭和50年4月1日オープン（浴室完備）

→ 鉱泉が温泉に認定されたことを受け、観光資源の開発として、多目的に使用できる「ろばた館」の整備を開始した。

#### ② 交流の場として住民の連帯意識やコミュニティの活発化

平成7年のオープンから、地域の集いの場、交流の場として現在に至っている。

#### ③ 都会との触れあいの機会の創設

子供の山村留学、農業体験、雪降ろしツアーなどの拠点としての活用が考えられていたが、継続した実施には至らなかった。

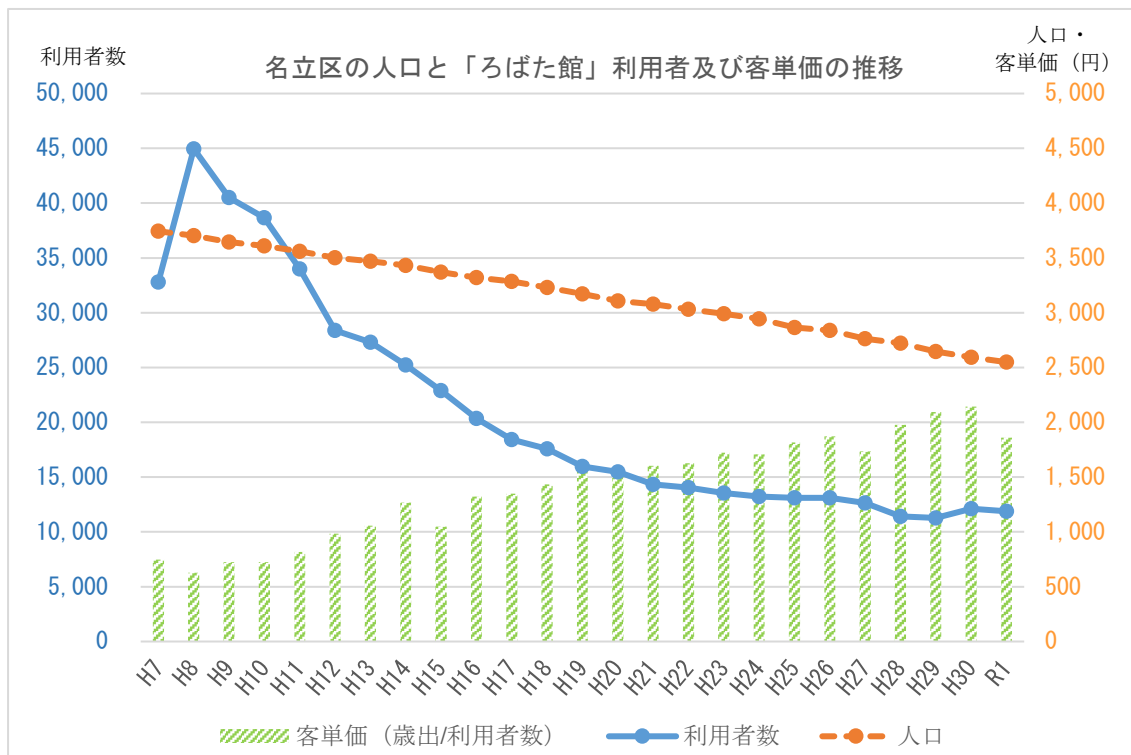
### (5) 現在の利用者の状況

ろばた館利用者の居住地別に集計した割合は以下のとおり。

《集計期間：令和2年7月18日～9月30日》

区分	名立区内	名立区以外の 上越市内	糸魚川市内	左記以外
割合	49%	29%	15%	7%

## (6) 利用者の推移等



人口は平成7年度の3,743人から減少が進み、令和元年度は2,549人まで減少した。

利用者は平成8年度の44,955人をピークに、平成12年度は28,392人、平成17年度には18,437人まで減少した。その後も緩やかではあるが減少傾向は続いており、令和元年度は11,869人の利用者数となっている。

なお、施設の維持管理経費は年間20,000千円～25,000千円かかっており、これを利用者の入浴料で賄った場合の客単価は、平成8年度のピーク時の628円から、令和元年度では1,859円と約3倍となっている。また、維持管理費を用途別に案分した場合、温浴及び食堂に係る公費投入額が大きくなっている。【別紙資料参照】

## (7) 施設整備当時の背景、現状

「ろばた館」が整備された平成初期は、昭和62年のリゾート法制定により全国的な大型リゾート開発が進んでおり、さらには「新しい食料・農業・農村政策」において、政策課題としてグリーン・ツーリズムが提唱された時期である。平成6年には農山漁村余暇法（「農山漁村滞在型余暇活動のための基盤整備の促進に関する法律」）が制定され、自治体が競うように余暇施設を整備した経緯がある。当時の名立町でも、ふれあいや交流の場の提供により、進む一方の高齢化・過疎化に歯止めをかけ、農業経営の改善・合理化や、地域コミュニティの活性化を図るための起爆剤とするため「ろばた館」を整備したものの、高齢化・人口減少が進み、利用者の減少も続いている状況である。加えて施設の老朽化に伴い維持管理費も高止まりとなっていることから、新たな形での地域コミュニティ形成の方策が必要となっている。

今後は、行政と地域が一体となり、どのような形での施策が必要かを検討していく必要がある。

## ろばた館の維持管理費と今後見込まれる大規模修繕等

ろばた館の運営に当たっては、地域の人口減少（過疎化・高齢化）の抑止し、地域の活性化を図るため、利用の促進に向けて、地域に住む人たちと一体となって様々な取組を進めてきたが、ろばた館の利用者はピーク時の1/4に減少したほか、施設の老朽化により維持管理費が高止まりとなっている現状にある。

利用者数が減少したことで一人当たりの公費投入額が高額となっていることに加え、今後、主に温浴機能維持のためには、ボイラーの入替や全館空調設備の入替などの大規模修繕を実施する必要がある。

### ■ろばた館の用途別で案分した公費投入額等

【令和元年度実績：利用人数割りをベースに利用実態に応じて計算】

(千円)					(人・%)		
区分	温浴	食堂	貸館	合計	区分	利用人数	割合
収入	3,088	2,114	116	5,318	温浴	10,701	67.9%
支出	15,286	6,162	621	22,068	食堂	4,517	28.6%
収支	△12,198	△4,048	△505	△16,750	貸館	545	3.5%

※ 単純計算だが、温浴と食堂を廃止した場合、約16,246千円の経費節減効果が見込まれる。

### ■施設の修繕実績と今後施設を維持した場合に見込まれる修繕

【修繕実績】

(千円)

種別	H27	H28	H29	H30	R1	R2(予定)
温浴設備	364	1,469	592	256	270	609
空調設備	43	0	478	2,405	512	1,001
その他	167	113	1,070	38	99	49
合計	574	1,582	2,140	2,699	881	1,659

※ 温浴設備は、主にバコティンヒーター（ボイラー関連）の修繕

空調設備は、冷温水発生機（全館空調関連）の修繕

【今後見込まれる大規模修繕等】

(千円)

種別	内容	金額	合計
温浴設備	バコティンヒーター（ボイラー）入替工事	6,600	7,141
	ろ過材入替	541	
空調設備	冷温水発生機（全館空調）入替工事	13,860	14,861
	ファンコイル自動制御機器更新工事	1,001	
その他	—	—	—
	—	—	



ろばた館を会場・拠点にした諸活動の現状と今後の施設機能の展開案について

機能	現状など
避難所	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市の指定緊急避難所</li> <li>○対象：5町内会（折平、東蒲生田、小田島、西蒲生田、下瀬戸）</li> </ul>
温浴	<ul style="list-style-type: none"> <li>○利用者の減少</li> <li>○収入と比較しても維持管理経費が高額</li> <li>○近隣に同様の施設が存在（うみてらす名立・くわどり湯ったり村）</li> <li>○宿泊はなく日帰りのみ</li> <li>○民間でも提供可能</li> </ul>
都市と農村の交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業体験や不動山登山会などの交流会の会場に利用</li> <li>○お盆や正月などの帰省客が入浴で利用</li> <li>○市営バスとタイアップした入浴料無料のキャンペーンの開催</li> </ul>
地域の賑わい（憩い・癒し・集い）の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気軽に寄ってもらえるよう入館料は徴収していない。</li> <li>○「獅子舞ともちつき」、「そば打ち」などの事業を開催</li> <li>○毎月、地元加工グループによる「名立うまいもん市」を開催</li> <li>○ラーメンやソバなどの昼食を販売</li> <li>○お盆や連休などに「おこわ」、「笹もち」などの特別食品を販売</li> <li>○50人以上集まれる会議室を完備</li> <li>○地元では草刈りや江あげなどの共同作業後に、入浴・慰労会を開催</li> </ul>
健康の増進 福祉の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○健康講座や地域支え合い事業などの会場として利用</li> <li>○社会福祉協議会や老人クラブが事業の会場として利用</li> <li>○高齢者・障害者用にエレベーターと福祉浴室「いたわりの湯」を完備</li> </ul>
伝統・文化の継承・育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○折平芸能保存会の発表主会場</li> <li>○新春の餅つきイベントでは、伝統的な「3人づき」を披露</li> <li>○毎月、地元の特産品や農産加工品を販売</li> </ul>

■避難所【公民館上名立分館】(指定避難所)

○避難所として必要な機能を確認する。

■温浴【うみてらす名立(ゆらら)】

○温浴施設「ゆらら」を利用してもらいやすいよう、交通機関との連携や利用促進のためのキャンペーンなどを検討する。

■都市と農村の交流【うみてらす名立】

○農業体験などを実施する際は、「うみてらす名立」の館内施設が特別料金で利用できるなどの特典の付加を検討する。  
○国道、高速道路、鉄道、路線バスと、他の地域に比べ基幹交通網が整備されている。交通網の中心となっている北部地区では、「名立地区公民館」や「うみてらす名立」を、主に区外・市外との交流活動などに活用するとともに、南部の公民館などは、地区内の地域づくり活動の拠点としての活用を検討していく。

■地域の賑わいの創出【うみてらす名立】

○「うみてらす名立」を、地域の情報発信や交流の拠点として活用できるよう、関係施策の更なる展開を検討する。  
○「うみてらす名立」で、地元加工グループが特産品の販売を行えるように、制度や施設の整備を検討する。

■健康の増進、福祉の向上【うみてらす名立・公民館上名立分館】

○「うみてらす名立」で、高齢者や障害者、子育て世代が気軽に利用できるようキャンペーンの実施を検討する。  
○地域支え合い事業や社会福祉協議会等の事業のために、必要に応じて「公民館上名立分館」の実施環境の整備を検討する。  
○高齢者等が、南部地域から「うみてらす名立」を利用しやすいように、送迎車両の運行を検討する。

■伝統・文化の継承・育成【公民館上名立分館】

○公民館上名立分館を会場に、後継者育成を含めた芸能保存会の活動への支援を検討する。  
○地域の歴史に光をあてた公民館事業を展開する。  
○「名立地区公民館」が、人材育成や学び、繋がりのつくりといった面から、これらの活動を引き続き支援していく。

■名立まちづくり計画

○名立まちづくり協議会が、今年度策定を予定する「名立まちづくり計画」に、総合事務所も一緒にに関わり、必要に応じて、新たな施策を検討する。

